

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年6月
市立札幌豊明高等支援学校

1 本年度の経営方針

1. 学校教育目標（スクール・ミッション）
自分の人生をより良く生きようとする生徒を育て、社会のウェルビーイングを実現します
2. 教育方針（スクール・ポリシー）
 - (1) このような生徒を育てます（グラジュエーション・ポリシー）
3つの価値
「自分を知り大切にしよう」
「まわりの人とつながろう」
「経験を力にしよう」を大切にしながら、
自分の人生をより良く生きようとするための「根っこ」を育てます
 - (2) 学びの中でこのようなことを大切にします（カリキュラム・ポリシー）
《教育課程編成の重点戦略》
ウェルビーイング×生徒指導
社会性と思いやりを、仲間と学び合う～豊明版包括的生徒指導で学びの土台を築く
ウェルビーイング×学習指導
AARサイクルで主体的に学ぶ～学習者主体の学びに伴走するチーム豊明
ウェルビーイング×進路指導
「はたらく」を通して生き方を考える～職業学科の強みを活かしたカリキュラム
3. 私たちの行動指針（アドミッション・ポリシー）
 - 1 自分の強みを見つけ、活かしていますか
 - 2 まわりの人を頼ったり、助けたりしていますか
 - 3 自分を成長させるために自ら学び、挑戦できていますか
 - 4 自分と相手の違いを認め合うことができていますか
 - 5 より良い答を見つけるために対話をしていますか
 - 6 自分やまわりの「今」と「未来」をよく考え、行動していますか

2 本年度の重点課題

- ・令和7年度グランドデザイン（学校教育目標全体構造図）の具現化
- ・各教科等の新カリキュラムへの移行
- ・教職員のウェルビーイングを実現する働き方の模索と働きがいのある職場の創造
- ・ウェルビーイングな公園づくりプロジェクトの推進
- ・豊明50年記念事業の計画と推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

※達成状況

⇒A 達成できている（90%以上） B 概ね達成できている（80～89%）

C あまり達成できていない（60～79%） D 達成できていない（59%以下）

※学校関係者評価

⇒A 適切な評価である B 概ね適切な評価である C あまり適切な評価ではない D 適切な評価ではない

(様式2)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針・学校運営	日々の教育活動は、学校教育目標や教育理念、行動指針、カリキュラム・ポリシーに基づいて実践されている。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	A
	学校組織は、学校教育目標達成のために、運営計画に基づいて機能している。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	A
	学校組織は、働き方改革を踏まえ、業務の見直しを進め、諸会議の効率化や ICT の活用等により、組織的かつ効率的に業務の見直しに取り組んでいる。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	A
	学校組織は、各種研修を行っている。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	A
	学校組織は、地域における特別支援教育センター的機能を検討し、実践に努めている。	B	毎年、少しずつ自己評価が上昇しています。その理由は、①教諭向け学校説明会の実施②本校主催の研修会の実施③本校からの外部講師の派遣④入学以外の教育相談の実施⑤外部機関との連携など、様々な取り組みを実施しているからだと分析します。	A	A
学校関係者評価委員による意見	各ポリシーを軸に、ICT 活用や業務改善で組織が「A」評価の成果を上げている点を高く評価します。 特別支援教育センターの取組を継続してください				
教育課程・評価	教育課程は、生徒の実態や社会の変化に対応し、地域社会との連携が図られるように編成されている。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	A
	総合的な探究の時間は、より良く課題を発見し解決していくことができる学習が発展的に繰り返されている。	C	今年度からの本格実施となりました。様々な新しい取り組みがスタートしました。次年度以降は、さらに3年間の見通しをもった年間計画を立てることで、より良くなると考えています。	C	C
	豊明版包括的生徒指導(Mプロ)は3つの価値の根っこを育て、生徒の成長につながるよう実践されている。	A	評価項目を達成。今後も継続。	B	C
	授業の方法、評価については、教職員間で研修・検討する機会が整っている。	C	教科学習に力を入れた新カリキュラムが今年度からスタートしました。今後、教員同士が参観し合うことや校内研修に位置付けることで改善していくと考えています。	C	B
	個別の教育支援計画や個別の指導計画の目標設定や評価は、生徒一人一人の実態に合わせて適切に行われている。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	A
	通知表の形式は、生徒・保護者にとってわかりやすいものとなっている。	A	評価項目を達成。今後も継続。	C	C
学校関係者評価委員による意見	個別支援や地域連携の「A」評価は、指針の浸透を示す成果です。一方で探究活動や授業研修の「C」評価は、AAR サイクルによる誠実な自己分析の結果と言えます。この課題を成長の糧とし、組織的な授業改善を期待します。 生徒指導、授業改善についていくつかここ数年と比較して課題があると思います。特に M プロに関しては全面的に内容を見直す必要があるように思います。教科学習に関しては、これ				

(様式2)

		からだと思いますので、今後の動きに注目したいです。			
生徒指導	スクールカウンセラーや医療機関、相談機関等との連携に努め、校内の体制や環境を整えている。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	A
	生徒の問題行動については、組織的かつ迅速に対応している。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	B
	生活のきまりについて、教職員間で共通理解が図られている。	C	改善のために2点必要だと考えます。①教職員への周知を工夫すること。②「ルールメイキング」つまり、「一人ひとりがより良くするためにどうすべきか考えること」について、教職員自身もマインドを変更する必要があること。	C	C
	生徒指導については、保護者と情報共有をきめ細かに行き、理解と協力を得ながら行われている。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	A
	生徒・保護者のニーズを踏まえた適切な進路指導が行われている。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	A
	卒後支援は、進路先や関係機関と連携し、適切に行われている。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	A
	アレルギー対応は、生徒の実態に合わせて適正に行われている。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>外部連携や進路指導の「A」評価は、生徒に寄り添う姿勢の表れです。一方「生活のきまり」の「C」評価に対し、教員の意識変革やルールメイキングを自ら課題に掲げた点を高く評価します。主体的な校風づくりを期待します。</p> <p>生活のきまりへの改善策について。教員のマインド変更の必要性について、変更すべき方向性や内容について「具体的に共有」されると、より良いと考えます。</p> <p>生活のきまり 「教職員自身もマインドを変更…」の表現が理解できません</p> <p>「教職員自身もマインドを変更」することについて、具体策が挙げられるとさらに良いと思います。</p>				
管理	施設設備の点検・補修等は、必要性・緊急性を考慮して行われている。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	A
	校務ネットワークは、情報セキュリティを遵守し、適切に活用されている。	A	評価項目を達成。今後も継続。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>安全な環境維持と情報管理の「A」評価は、教育の土台を支える誠実な運営の成果です。今後もセキュリティを遵守し、ICTを一層活用した効率的な校務運営に期待します。</p>				

※本校における「いじめ防止に関する項目」は、次の2点となります。

- ①『豊明版包括的生徒指導(Mプロ)は3つの価値の根っこを育て、生徒の成長につながるよう実践されている。』
- ②『生徒の問題行動については、組織的かつ迅速に対応している。』